

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100024
法人名	社会福祉法人 ひかりの里
事業所名	グループホームめだかの学校悠ゆう
所在地	山梨県甲府市武田2丁目8-17
自己評価作成日	令和 5 年 3 月 8 日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

平成18年12月民家改修型グループホームとして運営してきましたが、平成30年3月、4階建ての建物に建て替え、1階・2階にグループホーム、3階に小規模多機能型居宅介護、4階には児童養護施設「めだかの学校ジュニア」の分園花子がある高齢者と児童が同じ建物の中で生活している開所17年を迎えた複合型施設です。  
1階の玄関がひとつのため、子供たちが学校や遊びに行く際や帰りには、「いってきます。」「ただいま」の声があり、職員と共に利用者も「いってらっしゃい。」「おかえり」と答える光景が日々みられています。  
夏休みには、建物前にて子供たちがラジオ体操をするため、利用者も一緒に外も出て行う姿もあるそんな施設です。コロナ禍の中、外出行事が制限される中、地域の文化祭の作品展示に出展する作品作りが利用者の楽しみとなっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5 年 3 月 24 日

・管理より、GH「悠ゆう」を利用されてる利用者の家族の思いを受け止めて、利用者が笑って過ごすことができるケアを提供していきたいの思いを伺いました。食事の場面では、自力で食べられないからといって安易に介助にすることなく、こぼしても、上手に食べられなくても、自力で食べようとする潜在的な力を大切にしたいとの話を伺いました。・退所された利用者が亡くなられた際は、顔を見に行きたいと願う職員がいるとのこと。入居時からの利用者との関係性を大切にされています。・コロナ禍の中にあってもお寺のアジサイ見学は実施されています。法人で唯一「悠ゆう」が継続して行っている行事であり、これからも続けていきたいとのことです。・建物の4階が小規模の児童養護施設であり、玄関が共有になっている為、日々「言ってきます」「ただいま」の声が聞こえたり、ハロウィンには子どもたちがGHに遊びに来たり等、高齢者と児童との共生の場面が見られます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) <b>(※窓越しの面会など距離をとった交流)</b>	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人の生きてきた過程と尊厳を大切に、安心して笑顔で過ごせるよう、理念を共有しケアに当たっている。	その人の生きてきた過程と尊厳を大切に、安心して笑顔で過ごせるよう、理念を共有しケアに当たっている。	事業所は、安心、安全の中で笑顔で過ごしていただくことを理念に掲げています。理念の内容は、毎月の会議の場で、介護プランに基づいて確認したり、日々の朝礼、昼礼を通して職員間での共有がなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事には声をかけてもらい、参加している。(コロナ禍で数年は行事が中止となっている。)日々の生活中での挨拶など声をかけることを心がけている。	地域の行事には声をかけてもらい、参加している。(コロナ禍で数年は行事が中止となっている。)日々の生活中での挨拶など声をかけることを心がけている。	管理者は児童養護施設が併設されていること背景から、自治会の育成協議会の役員を請け負い、地域の行事(夏祭り・環境美化活動・歩道巡回)に利用者や子どもと参加されたり、役割を担う等、地域との関係性の継続に尽力されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が、認知症の方がいる施設であること知っているため、相談に立ち寄ることもある。また、立ち話時に声をかけてもらう事もある。	地域の方が、認知症の方がいる施設であること知っているため、相談に立ち寄ることもある。また、立ち話時に声をかけてもらう事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において報告し、感想・意見を述べてもらっている。会議での意見や会議の状況は職員に伝え、家族や地域の方の思いを共有し今後のサービスに活かすようにしている	運営推進会議において報告し、感想・意見を述べてもらっている。会議での意見や会議の状況は職員に伝え、家族や地域の方の思いを共有し今後のサービスに活かすようにしている	令和4年度においては、利用者の参加は見合わせていたが、対面による推進会議を実施していました。会議の内容はコロナ禍における面会の状況や、面会のあり方について話し合うことが多かったとのことです。他の事業所の情報等を参考にしながら、「悠ゆう」として実施できる面会方法を、家族との話し合いを経て実施されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困りごとなどは相談する様にし、出来る限り市町村との連携が取れる様に努力している。	困りごとなどは相談する様にし、出来る限り市町村との連携が取れる様に努力している。	市の担当者には、困った時や入居の相談を受けた際に相談しているとのことです。管理者は、甲府市サービス事業所連絡会が行う会議や講習会等に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解する様に職員研修や職員会議を利用し定期的に伝え、日々の業務の中で何気ない声かけにも拘束が潜んでいることを伝えている。拘束によるケアは決して良い方向には進まないことを職員に理解してもらっている。	全職員が身体拘束について理解する様に職員研修や職員会議を利用し定期的に伝え、日々の業務の中で何気ない声かけにも拘束が潜んでいることを伝えている。拘束によるケアは決して良い方向には進まないことを職員に理解してもらっている。	車椅子の方への抑制ベルトやスピーチロックが拘束にあたることを、職員間で研修し共有しています。特にスピーチロックについては、法人全体で研修が実施されています。事業所内に委員会が設けられており、年に1回の研修を実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を大事にし、身体への暴力だけが虐待ではなく、職員の声かけや対応も虐待につながることを注意としてうながしている。入浴時や健康チェック時、体調の変化や利用者の様子を観察、気づくことも虐待防止につながることを指導している。	尊厳を大事にし、身体への暴力だけが虐待ではなく、職員の声かけや対応も虐待につながることを注意としてうながしている。入浴時や健康チェック時、体調の変化や利用者の様子を観察、気づくことも虐待防止につながることを指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から制度の相談をされたり、制度を利用している利用者もいるので学ぶ機会を持ったが、職員全体が周知・理解することは難しい。個々の必要性に応じ本人・家族に適切に導入してもらう事や支援することが課題と感じている。	家族から制度の相談をされたり、制度を利用している利用者もいるので学ぶ機会を持ったが、職員全体が周知・理解することは難しい。個々の必要性に応じ本人・家族に適切に導入してもらう事や支援することが課題と感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と連絡を取り合い、不安な点や疑問や不明点に納得・理解してもらえるよう対応している。利用開始後に疑問点が出てくることもあるので、その都度、説明し理解してもらえるように努めている。	家族と連絡を取り合い、不安な点や疑問や不明点に納得・理解してもらえるよう対応している。利用開始後に疑問点が出てくることもあるので、その都度、説明し理解してもらえるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議において、家族からあがった意見や要望は職員会議や日々の業務の中で職員に伝え改善に取り組んでいる。法人内での周知が必要な意見などは事業所会議などで報告、検討している。運営に反映したことや検討していることは面会時や運営推進会議において報告している。	面会時や運営推進会議において、家族からあがった意見や要望は職員会議や日々の業務の中で職員に伝え改善に取り組んでいる。法人内での周知が必要な意見などは事業所会議などで報告、検討している。運営に反映したことや検討していることは面会時や運営推進会議において報告している。	家族からの声は、電話や面会の際に伺い、職員会議において内容の共有を図っています。また、法人に係る内容については施設長会で報告されています。一部の家族からは、外国人労働者が介護に携わっていることへの心配の声が寄せられているとのことです。管理者からは、外国人でも普通に介護の仕事ができていて、コミュニケーションが上手にとれていることが話されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員の意見や要望などは聞くようにしている。また、個別に聞く機会や時間を設ける様に心がけている。可能なものについては早めに導入・反映している。	日々の業務の中で職員の意見や要望などは聞くようにしている。また、個別に聞く機会や時間を設ける様に心がけている。可能なものについては早めに導入・反映している。	利用者の処遇等に関する内容については、いつでも話ができるように配慮されています。また、運営等に関する内容については、相応の時間を確保する中で対応されています。職員からの相談は、勤務形態や勤務内容についてが主とのことで、管理者が対応できる内容には早急に取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務可能な条件等を考慮した勤務が出来るようにしている。勤務評価などを行い、能力ややる気に応じた昇給や資格手当などの支給を行っている。	職員の勤務可能な条件等を考慮した勤務が出来るようにしている。勤務評価などを行い、能力ややる気に応じた昇給や資格手当などの支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回の内部研修や月1回の職員研修を行い知識や技術の向上に努めている。外部研修の案内を周知し、職員個人の学びの機会を作っている。必要に応じて参加要請している。	年5回の内部研修や月1回の職員研修を行い知識や技術の向上に努めている。外部研修の案内を周知し、職員個人の学びの機会を作っている。必要に応じて参加要請している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修などを通して同業者との交流、ネットワークづくりの機会としてもらっている。コロナ禍にて他施設との相互訪問の機会がなくなっているが、積極的に取り組みたいと思っている。	外部研修などを通して同業者との交流、ネットワークづくりの機会としてもらっている。コロナ禍にて他施設との相互訪問の機会がなくなっているが、積極的に取り組みたいと思っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に可能な限り、自宅や日々生活している場所に訪問し顔合わせをしている。また、家族や身近の方に接し方や声かけの仕方、生活について聞き、顔合わせをした際に安心してもらえるような声かけや対応を心がけている。	入所前に可能な限り、自宅や日々生活している場所に訪問し顔合わせをしている。また、家族や身近の方に接し方や声かけの仕方、生活について聞き、顔合わせをした際に安心してもらえるような声かけや対応を心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と密に連絡を取り合い困っている事、不安に思っている事に耳を傾け状況を理解し安心してサービスを利用出来るように心がけている。また、家族の思いを受けとめ助言や支援に努めている。	家族と密に連絡を取り合い困っている事、不安に思っている事に耳を傾け状況を理解し安心してサービスを利用出来るように心がけている。また、家族の思いを受けとめ助言や支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話しを聞き、その方の望んでいる支援を広い視野を持ち適切なサービスが受けられる様、また、誤解や不安を招かないよう話し合う機会を持つように心がけている。	本人や家族の話しを聞き、その方の望んでいる支援を広い視野を持ち適切なサービスが受けられる様、また、誤解や不安を招かないよう話し合う機会を持つように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、自身で出来ることは出来る限りして頂き時には娘・息子・孫のようにお互いが叱咤激励するような、和やかな関係作りが出来ている。	家庭的な雰囲気の中、自身で出来ることは出来る限りして頂き時には娘・息子・孫のようにお互いが叱咤激励するような、和やかな関係作りが出来ている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や本人にしか分からない思いもあるため、その関係を崩さないよう少しでも共有させていただき、支えられたらと思っている。また、苦しい時こそ話してもらえ一緒に考え力になれるようになっていきたい。そのためにも、信頼関係を築き、話せる関係になれるよう心がけている。	家族や本人にしか分からない思いもあるため、その関係を崩さないよう少しでも共有させていただき、支えられたらと思っている。また、苦しい時こそ話してもらえ一緒に考え力になれるようになっていきたい。そのためにも、信頼関係を築き、話せる関係になれるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の話しを聞き、知人や親戚の方との関係が途切れない様に可能な限り電話や面会に来て頂けるようお願いしている。手紙などを定期的に通ってくれる知人がいる方もいる。	本人や家族の話しを聞き、知人や親戚の方との関係が途切れない様に可能な限り電話や面会に来て頂けるようお願いしている。手紙などを定期的に通ってくれる知人がいる方もいる。	利用者17名中、地域から数名入居されており、近所の方が面会に来られたり、コロナ禍の際には電話がきたり、絵手紙が届いたり馴染みの方との関係が継続されています。馴染みの場所では、多くの利用者が家に帰りたいとの思いを抱いているとのことで、家庭状況に応じた対応がなされています。数10年来からの美容師さんが定期的カットに来られており、利用者とは馴染みの関係になっているとのことです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気や大事にし、皆で和気あいあいと話したり入居者同士で助け合ったり、支え合う、慰め合う光景が出来る。時には、喧嘩をする場面もある職員が見守り、間に入ったり、話の輪に入るなど、孤立しない様支援を心がけ皆が楽しく過ごせるよう努めている。	家庭的な雰囲気や大事にし、皆で和気あいあいと話したり入居者同士で助け合ったり、支え合う、慰め合う光景が出来る。時には、喧嘩をする場面もある職員が見守り、間に入ったり、話の輪に入るなど、孤立しない様支援を心がけ皆が楽しく過ごせるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他のサービス施設入所に伴い契約解除になった後も必要に応じて、家族と連絡を取り合い、困ることがない様相談に乗り支援している。	入院や他のサービス施設入所に伴い契約解除になった後も必要に応じて、家族と連絡を取り合い、困ることがない様相談に乗り支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりと話を聞く機会を日々の生活の中でみつけ行っている。本人の意向がはっきり聞けない場合は家族に協力してもらったり、行動や何気ない会話の中から見つけ出すよう考え支援している。	一人ひとりと話を聞く機会を日々の生活の中でみつけ行っている。本人の意向がはっきり聞けない場合は家族に協力してもらったり、行動や何気ない会話の中から見つけ出すよう考え支援している。	職員間で介護プランの内容を確認しながら、利用者との日々の関わりの中から意向を受け止め、月に1度の会議で意向の把握に努めています。家族からの情報や、日常の会話から、送りノートを活用しながら思いを引き出し、様々な試みを行い、実際の反応から判断するよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から若い時の話や生活などを聞くような機会を設けている。困難な場合は、家族から可能な限り話を聞き把握に努めている。知人や親戚の方にも失礼のない範囲でお聞きしている。話すことを拒否することもあるので、その際はあえて触れない様にしている。	本人から若い時の話や生活などを聞くような機会を設けている。本人の意向がはっきり聞けない場合は家族に協力してもらったり、行動や何気ない会話の中から見つけ出すよう考え支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活習慣を大事にしながら4、一日の過ごし方を把握する様に努めている。職員同士で日々気づいた事や情報を共有しその人が持っている力を奪わず維持していきけるよう、まずは、出来ないではなく、やっていただくことから始めている。	今までの生活習慣を大事にしながら4、一日の過ごし方を把握する様に努めている。職員同士で日々気づいた事や情報を共有しその人が持っている力を奪わず維持していきけるよう、まずは、出来ないではなく、やっていただくことから始めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の職員会議で話し合い検討している。日々の生活の中で気づいた事や要望に対して、職員がチームとして話し合い共有し、介護計画にも反映してもらい支援していくように努めている。	月1回の職員会議で話し合い検討している。日々の生活の中で気づいた事や要望に対して、職員がチームとして話し合い共有し、介護計画にも反映してもらい支援していくように努めている。	介護プランはケアマネが作成しています。プランの更新時には、全体の会議を開いて職員の意見をモニタリングに反映させています。ケアマネは、現場職員による日々の記録や、家族の意見をケアプランの作成に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについて記録に残し、気づいた事や必ずしてもらいたい事、周知してもらいたい事は申し送りノートに記入し、職員間で共有している。日々変わることが多いので、随時、臨機応変に対応する様にしている。	日々の様子やケアについて記録に残し、気づいた事や必ずしてもらいたい事、周知してもらいたい事は申し送りノートに記入し、職員間で共有している。日々変わることが多いので、随時、臨機応変に対応する様にしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な柔軟な対応を心がけている。既存のサービスに縛られてしまいニーズに応えられない事や難しい現状もあるが、代替えになることなどをさぐりながら対応している。	臨機応変な柔軟な対応を心がけている。既存のサービスに縛られてしまいニーズに応えられない事や難しい現状もあるが、代替えになることなどをさぐりながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として把握している部分もあるが、入居施設という中で資源活用が難しい場合がある。また、把握できていない地域資源のあると思うので広い視野をもち、情報にも耳を傾け、安心、安全に暮らせるよう支援していきたい。	地域資源として把握している部分もあるが、入居施設という中で資源活用が難しい場合がある。また、把握できていない地域資源のあると思うので広い視野をもち、情報にも耳を傾け、安心、安全に暮らせるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を聞いている。家族の協力を得ながら元々のかかりつけ医への受診している。必要に応じて、主治医に情報の提供を行い、一緒に受診に付き添うなどし、主治医と面談をもち相談しながら、関係性が築かれ、保たれている。	入所時にかかりつけ医を聞いている。家族の協力を得ながら元々のかかりつけ医への受診している。必要に応じて、主治医に情報の提供を行い、一緒に受診に付き添うなどし、主治医と面談をもち相談しながら、関係性が築かれ、保たれている。	入居時に、かかりつけ医の継続あるいは法人のクリニックへの変更が可能であること、かかりつけ医の受診が家族では抱えない場合に、事業所が付き添う場合の費用等についての説明がなされています。事業所が行う、かかりつけ医の受診に際しては、かかりつけ医との関係性が形成されることで、今後の看取りの段階での協力関係が築けるとのことです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員には気づきを心がけてもらい、気づいた事は管理者に随時、相談、報告し家族と話し合い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	介護職員には気づきを心がけてもらい、気づいた事は管理者に随時、相談、報告し家族と話し合い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は、情報提供を行っている。入院中は適宜に連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応出来る様、相談させてもらっている。退院後の生活が無理なく送れるよう指導してもらっている。馴染みにある病院との関係作りは出来ているが、まだ関係作りが出来ていない病院もあるので今後の課題。	入居者が入院した時は、情報提供を行っている。入院中は適宜に連絡を取り合い、退院時にはいつでも対応出来る様、相談させてもらっている。退院後の生活が無理なく送れるよう指導してもらっている。馴染みにある病院との関係作りは出来ているが、まだ関係作りが出来ていない病院もあるので今後の課題。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢者であることから先の事を考え入所時に本人、家族の意向や希望を話し合うようにしている。家族が誤解せず、理解し受け止めて下さるよう話し合う機会を時折設け時間をかけ取り組んでいる。契約時には、グループホームでの出来ることできないことを伝えている。終末期については家族から相談もあることから、相談しながら対応している。	高齢者であることから先の事を考え入所時に本人、家族の意向や希望を話し合うようにしている。家族が誤解せず、理解し受け止めて下さるよう話し合う機会を時折設け時間をかけ取り組んでいる。契約時には、グループホームでの出来ることできないことを伝えている。終末期については家族から相談もあることから、相談しながら対応している。	家族にはGHにおいて対応できる条件を話した上で入居いただいています。医療的なケアが必要となった終末期については、法人が運営する特養や病院への移転が可能であることが話されています。移転により、生活の場が変わっても同じ法人の中で最期を見守りたいとの思いを伺いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修などを通して、緊急時の対応・連絡体制を周知する様にしている。また、最低でも年1回は救急法を日赤の救急法指導員を講師に招き指導を受けている。	研修などを通して、緊急時の対応・連絡体制を周知する様にしている。また、最低でも年1回は救急法を日赤の救急法指導員を講師に招き指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年数回、外出や行事を利用したり時間をとり、避難訓練を行っている。また、職員研修においても、年1回は水消火器体験も取り入れた研修も行っている。大震災も視野に入れ備蓄の見直しにも取り組んでいる。地域の要援助者の避難所としても登録している	年数回、外出や行事を利用したり時間をとり、避難訓練を行っている。また、職員研修においても、年1回は水消火器体験も取り入れた研修も行っている。大震災も視野に入れ備蓄の見直しにも取り組んでいる。地域の要援助者の避難所としても登録している	事業所はハザードマップの対象外のエリアに立地しています。災害時の避難場所は歩いて数分の小学校に指定されているとのこと。実際の避難訓練は職員体制の厚い行事日に合わせて実施しています。避難場所は玄関とのことです。消防署には災害時の協力依頼の体制がとられています。	避難訓練にあたっては、2階の利用者をどのようにして移動させるか、全ての利用者をどのようにして避難場所まで移動させるか、大変な動きになるかと思いますが、多くのマンパワーのもとで一度でも実施しておくかと感じました。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての尊敬の念を忘れずに、一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけないよう馴染みの関係を保ちつつ声かけや言葉使いに配慮している。	人生の先輩としての尊敬の念を忘れずに、一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷つけないよう馴染みの関係を保ちつつ声かけや言葉使いに配慮している。	プライバシーに関しては、特にトイレの誘導時の声掛けに配慮しています。また、居室の中に保管されているオムツ類が目につかないよう配慮されています。利用者の居室に入る際は、留守であってもノックをすること、入室している時は許可を頂く事。職員の入室を快く思わない利用者には、予め入室の理由を話しておくなどの細心な配慮がなされています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に話す機会を設けたり、問いかける様な声かけを行い、本人が思いを言えるような環境作りに努めている。 職員にも押し付けるのではなく聞く姿勢を持ち、意向などを聞くよう努めるようにしてもらっている。	個別に話す機会を設けたり、問いかける様な声かけを行い、本人が思いを言えるような環境作りに努めている。 職員にも押し付けるのではなく聞く姿勢を持ち、意向などを聞くよう努めるようにしてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人にあった支援をするよう心がけている。時として、時間や都合でペースに合わせられない場面や状況もあるので、工夫や代わりに出来ることを考えながら支援、対応をするようにしている。	その人その人にあった支援をするよう心がけている。時として、時間や都合でペースに合わせられない場面や状況もあるので、工夫や代わりに出来ることを考えながら支援、対応をするようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで使っていた化粧品や外出着を持って来てもらい、おしゃれや化粧品に興味を薄れないよう支援している。 定期的に美容師にカットしてもらっているが、本人が希望を聞いてもらっている。	今まで使っていた化粧品や外出着を持って来てもらい、おしゃれや化粧品に興味を薄れないよう支援している。 定期的に美容師にカットしてもらっているが、本人が希望を聞いてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番の楽しみなので、一人ひとりの好みや力が反映できるよう心がけ、対応している。 生活歴を活かし、毎食ごと準備から配膳、片付けを一緒にしている。味見をしてくれたり、「私がするわ」「何かやることない」など率先してして下さる方もいる。	食事は一番の楽しみなので、一人ひとりの好みや力が反映できるよう心がけ、対応している。 生活歴を活かし、毎食ごと準備から配膳、片付けを一緒にしている。味見をしてくれたり、「私がするわ」「何かやることない」など率先してして下さる方もいる。	食事はメニューに沿って発注した食材を調理して、提供しています。また、週に1回は自由メニューとして利用者の希望献立を取り入れています。利用者は、食材を切る、配膳、食器拭き、おしぼりセット等を担っており、役割が固定化されてきているとのことです。特別食の利用者には見た目にも配慮した対応がとられています。コロナが落ち着いた折には、利用者と一緒に近くのスーパードでの買い出しを復活させたいとの意向です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や病気等を考慮し日々の状態を記録し、職員間で情報共有している。その時に応じた対応をしている。 食べる量や水分が足りない時は家族に相談しながら、補助食品や好みの飲み物・食べ物を購入し対応している。 主治医への相談も行っている。	体調や病気等を考慮し日々の状態を記録し、職員間で情報共有している。その時に応じた対応をしている。 食べる量や水分が足りない時は家族に相談しながら、補助食品や好みの飲み物・食べ物を購入し対応している。 主治医への相談も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。 夜間は、義歯は外し洗浄剤に付けるようにして、清潔・口臭などに配慮している。歯ブラシなど自身では不十分な方もいるので職員が手伝うことも行っている。	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。 夜間は、義歯は外し洗浄剤に付けるようにして、清潔・口臭などに配慮している。歯ブラシなど自身では不十分な方もいるので職員が手伝うことも行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握対応している。 状況を把握し出来る限り、紙パンツは使用しない対応に切り替えている。昼夜共に、トイレの声かけを行い、トイレに行く支援をしている。	個々の排泄パターンを把握対応している。 状況を把握し出来る限り、紙パンツは使用しない対応に切り替えている。昼夜共に、トイレの声かけを行い、トイレに行く支援をしている。	排泄の自立を目標に、失禁の少ない利用者には布パンツで対応されたり、心配な利用者にはバットを使う等、トイレでの排泄を心がけています。トイレの拒否が強い利用者には「トイレ」という言葉を使わない働きかけを工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンをチェックし、早めの対応を心がけている。 毎朝、冷たい牛乳や水を飲んでいただきようにしている。 薬に頼らずに排泄につながるよう努めている。	排泄パターンをチェックし、早めの対応を心がけている。 毎朝、冷たい牛乳や水を飲んでいただきようにしている。 薬に頼らずに排泄につながるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望に合わせて入浴出来るよう心がけている。 体調や希望に合わせて無理強いはいしない声かけや支援をするように努めている。入浴を拒む方には、声かけに工夫をするよう心がけ定期的に入浴できるように対応している。	なるべく本人の希望に合わせて入浴出来るよう心がけている。 体調や希望に合わせて無理強いはいしない声かけや支援をするように努めている。入浴を拒む方には、声かけに工夫をするよう心がけ定期的に入浴できるように対応している。	入浴は週に3回、午前を中心に実施されています。入浴の順番は拘りのある利用者は希望に沿った順番で入っていただき、感染症のある方には最後の入浴に協力していただいています。お風呂には入浴剤を入れたり、季節に応じたゆず湯や菖蒲湯を取り入れています。入浴介助は、利用者の了解を得る中で異性介助で行われていますが、拒否のある利用者には希望に沿った対応がとられています。	

自己評価および外部評価結果

事業所名 **グループホームめだかの学校悠ゆう**

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息については、一人ひとりの様子に気を配り、自分から言えない方もいるため声かけに配慮している。夜間においては、早く寝る事を無理強いしないよう心がけ対応している。寒い時期には個人の希望にて湯たんぽを使用し安眠に努めている。	休息については、一人ひとりの様子に気を配り、自分から言えない方もいるため声かけに配慮している。夜間においては、早く寝る事を無理強いしないよう心がけ対応している。寒い時期には個人の希望にて湯たんぽを使用し安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに服薬説明書が綴っており職員が理解しておくようになっている。変動があった場合は申し送りノートや受診記録ノートにより情報を共有し、気づいた事は記録に残すと共に職員間で伝えるようになっている。確実に服薬で出来る様に服薬表も付けている。	個人ケースに服薬説明書が綴っており職員が理解しておくようになっている。変動があった場合は申し送りノートや受診記録ノートにより情報を共有し、気づいた事は記録に残すと共に職員間で伝えるようになっている。確実に服薬で出来る様に服薬表も付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びが持てるような生活を心がけている。生活歴を把握し、玄関の掃き掃除や花の水やりなどの支援も行っている。気分転換においては、散歩や近隣の喫茶店にコーヒーを飲みの行く支援も行っている。	張り合いや喜びが持てるような生活を心がけている。生活歴を把握し、玄関の掃き掃除や花の水やりなどの支援も行っている。気分転換においては、散歩や近隣の喫茶店にコーヒーを飲みの行く支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出支援においては制限があり、行えていないのが現状である。コロナの感染状況を見ながら、家族と外食された方もいる。今後、コロナ禍前の様に外出支援が出来る様に工夫していく。	コロナ禍で外出支援においては制限があり、行えていないのが現状である。コロナの感染状況を見ながら、家族と外食された方もいる。今後、コロナ禍前の様に外出支援が出来る様に工夫していく。	コロナ禍前は、近くの通りに花を見に行ったり、ドライブでハナミズキを見に行かれていました。また、落ち着かない利用者で個別にコーヒー店へ行ったり、スーパーで買い物やお墓参りにも行かれていたとのこと。アジサイが咲くころは、コロナ感染に気を付けながら半日の日程で見学を実施したとのこと。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物等で職員が付き添うことにより、自分で品物を選び料金を支払う支援をコロナ禍以前は行っていた。状況を見ながら、近隣のスーパーでの買物が自身で行えるゆ支援を復活していきたい。	買物等で職員が付き添うことにより、自分で品物を選び料金を支払う支援をコロナ禍以前は行っていた。状況を見ながら、近隣のスーパーでの買物が自身で行えるゆ支援を復活していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話をして下さる家族もいる。その際は、一緒に寄り添い本人が電話が出来るよう支援している。手紙については字を書く事が苦手な方もいて最初からあきらめているので、一緒に行えるように支援している。家族などからの手紙は一緒に読んだり、部屋に飾るなどしている。	定期的に電話をして下さる家族もいる。その際は、一緒に寄り添い本人が電話が出来るよう支援している。手紙については字を書く事が苦手な方もいて最初からあきらめているので、一緒に行えるように支援している。家族などからの手紙は一緒に読んだり、部屋に飾るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作り品を飾ったり、手作りの空間作りに工夫している。玄関や食卓テーブルには花を飾るなど工夫をしている。季節の飾りを飾るなどし季節感を感じられるようにしている。	利用者の手作り品を飾ったり、手作りの空間作りに工夫している。玄関や食卓テーブルには花を飾るなど工夫をしている。季節の飾りを飾るなどし季節感を感じられるようにしている。	玄関には、利用者が制作した作品が飾られています。車椅子の利用者がおられることから、フロアや廊下に物を置かない様になっています。季節の花を置くことで喜んでくれたり、利用者が花の世話をしてくれるとのこと。利用者が時間を認識できるよう、リビングには2か所に時計を設置し、各テーブルにも置いているとのこと。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間であるため、一人になれる場所は居室しかないのが現状のため、希望や状況により職員と居室で話をしたり、一人で居室に居る時間を作りなど対応を工夫している。	限られた空間であるため、一人になれる場所は居室しかないのが現状のため、希望や状況により職員と居室で話をしたり、一人で居室に居る時間を作りなど対応を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を持って来てもらったり、家族との写真を飾るなどし、自室である事を認識でき、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。紙パンツなどは、人目にはわからないよう置くなどしている。	居室には馴染みの物を持って来てもらったり、家族との写真を飾るなどし、自室である事を認識でき、居心地の良い空間を作れるよう工夫している。紙パンツなどは、人目にはわからないよう置くなどしている。	居室には予めベッドとカーテン、リネン(好みにより選択)が設置されています。利用者の中には化粧道具や使い慣れた品々、位牌を持ち込まれている方がいます。利用者の中には、家族が来られて写真(家族写真)を飾ってくれたり、季節のちぎり絵を飾りに来てくれています。各部屋には、クリスマスのプレゼントとして贈られた季節感を感じてもらえるカレンダーや、利用者が好きな動物等のカレンダーが飾られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間であることで職員の目が届きやすく身体機能を把握しやすい。ワンフロアにて廊下が東西に長いので、自身で散歩や歩行訓練と言いつい歩いている利用者もいる。また、車いすの方も自走の練習を職員と行っている方もいる。	限られた空間であることで職員の目が届きやすく身体機能を把握しやすい。ワンフロアにて廊下が東西に長いので、自身で散歩や歩行訓練と言いつい歩いている利用者もいる。また、車いすの方も自走の練習を職員と行っている方もいる。		